

# 2024年度 夏季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書 (単位認定希望者対象)



ランチを配膳している様



朝ご飯の様子

## 1. 参加目的

小さな頃から勉強していた英語がどれだけ本場でも通用するのか試したくなったこと、周りの友人が海外留学に行っている中、自分も何かこの夏休みにチャレンジしてみたいと感じたため、参加しました。その中で、日本では目にする数の少ないホームレスの方と身近に活動するこのプログラムで、人生における大切な経験になるであろうと確信が持てたし、必ず必要になる経験だと感じたことで応募を決めました。また、授業をとっていた教授にこの学部について海外留学をしないでどうする、と強く言われたことも一歩を踏み出すきっかけになったと思います。もともと、あまり留学などは視野に入れて入学したわけじゃなかったのですが、何か新しいことをしてみたいという一心で、ひそかに憧れていた海外留学に興味が出ました。

## 2. ボランティア実習内容について

ボランティア内容としては、ホームレスの方に対してランチ配膳及びランチ作成と、低所得者に対する食料配布などがあつた。また、学童やランチボックス作成など、一度きりではあつたが、違った種類のボランティアをすることもあつた。ホームレスの方と接する活動はグライドメモリアルチャーチというダウンタウンから少し歩いた教会で行われた。低所得者に対する食料配布は、サンフランシスコ各地で行われ、チャイナタウンや住宅街のはずれなど、様々なところで行われており、個人でのボランティア参加として地元の人々が来ていることが多かった。どちらも単純な作業であることが多いが、アメリカならではのスモールチャットは多くあり、受け取る方々との短い会話などは多くあつた。

## 3. プログラムを通して学んだこと

私はこのプログラムを通して、自信をもって積極的に発言をすれば学ぶことが増えるということである。私はみんなで集まって発言をする場や質問された場の時は、積極的に発言するようにしていた。そうすると、私の名前や顔を覚えてくれて、もっと話しかけてくれるようになったり、英語が上手ね、とほめてくれるようになって、自分の自信につながった。自分の英語力に自信がなくても、頑張っただけで伝えようとすると、しっかり聞いてくれることが多いし、わからないことがあつたらしっかり聞き返すことで英語の勉強にもなったと感じた。また、ボランティアを行うことで、アメリカには日本と大きく違って大きな町に普通にホームレスの方がいたり、マリファナが充満していたりしている現状をより身近に感じ、街を歩いているだけでは絶対に触れ合えなかつた方々と挨拶しあうことができ、とても貴重な経験を積むことができたと思う。

## 4. ボランティアプログラムを終えての感想

今回のボランティアプログラムを終えて、英語を学ぶということ、アメリカの低所得者の現状の両方を学ぶことができたと感じた。自分の中では、英語はホストファミリーやボランティアの人から学ぶのかな、と漠然と思っていたが、スーパーの定員さんやホームレスの方との会話など、たくさんの場面で英語に触れる機会があり、学びが無意識のうちに多くあつたと思う。また、ボランティア活動としてのアメリカの低所得者の状況を学ぶこともあつたが、ボランティア後にダウンタウンを散策すると町にホームレスの人がいたり、日常からボランティアについて考える機会がありとても興味深かつた。今回の体験を通して、日本という国がどれだけ恵まれた国であるか、自分がおかれた環境がどれだけ重要なものか考え直す良いきっかけになつた。